



【準々決勝・八学大一神奈川大】8回2失点の力投を見せた  
八学大的小林直生=神宮球場

# 八学大18年ぶり4強

明治神宮野球大会

明治神宮野球大会  
東2) を6-1で下し、  
2007年以来18年ぶり  
に4強入りを決めた。  
明治神宮野球大会第4  
日は17日、神宮球場で大  
学の部の準々決勝を行  
い、初戦に臨んだ八学大  
(東北) は神奈川大(関  
と、五回には吉田時輝が

適時打を放ち、勝ち越しに成功した。

球と代打佐藤啓吾の3点  
適時一塁打で4得点を挙げ、試合を決めた。

▽準決勝  
英明(四国)

エース小林要所を締める  
代打佐藤走者一掃二塁打

八学大は攻守が込み合  
い、18年ぶりの4強入り  
を果たした。エース小林  
直生は8回2失点の力  
投。攻撃面では中盤以降  
に粘り強さを見せて試合  
の流れを渡さなかつた。  
小林は「チームのみんな  
で力を合わせて勝つこと  
ができた」と胸を張った。  
小林は毎回のように走  
者を背負いながらも、伸  
びのある直球で押し、力  
ツボールを決め球に要  
所を締めるピッチング。  
先に点を取られても、同  
点にされても動じず、最  
少失点でのいだ。

エースの好投に応えようと打線は八回、2本の安打と四球で2死満塁になると、織田豊多（六戸町出身、八学光星高）が冷静に押し出し四球を選んで勝ち越し。ここで代打として送り出されたのは佐藤啓吾。

懸け、昨年王者の青山学院大とぶつかる。小林は「もう1勝できるようにしっかりと準備していきたい」、3年生の佐藤は「先輩たちと一緒にでも長く野球ができるように全力で戦う」と意気込んでいた。(千葉達也)

「とにかくつなぐ意識だった」。気持ちを乗せて外の速球を強振。走者一掃の適時打二塁打となり、仲間に迎えられると笑顔がこぼれた。



8回2死満塁、試合を決定づける3点適時二塁打を放ち、仲間に祝福される八学大の佐藤啓吾（右から2人目）